

ひかりのこつうしん

「心の根っこ」

2026年5月



ひかりの子幼稚園
園長 若槻 三記子



風に初夏の気配が混じるようになり、子どもたちは、汗をかきながら、園庭でダイナミックに泥んこ遊びや三輪車、水あそびを楽しんでいます。こうさぎ組の子どもたちも少しずつ園生活に慣れてきた様子が見られます。この5月、子どもたちのお楽しみが、園の畑でのいちご狩りです。「いついちごが食べられるの?」「もう赤くなってきたよ!」といちご狩りの日を待ちわび、当日は大きくて甘いいちごをみんなで感謝していただきました(*∇*)🍓

実はこのいちご、本園の用務員さんが、1年もの時間をかけて大切に育てたものです。品種は、宝交早生(ほうこうわせ)と言います。とても甘くて酸味もあり、味が濃く、柔らかな果肉が特徴です。

親株側ランナーは
2~3cm残してカット

子株側ランナーは
短くカット



いちごは、親株からびよ〜んと伸びる“ランナー”と呼ばれるつるから新しい苗をとります。ランナーは、親株から栄養をもらいながら根を張っていきます。根がしっかり張り、葉が3~4枚きれいに開いたら親株から切り離します。夏場は、水枯れしないように管理し、秋には大きく育った苗を畑に植え付けます。寒い冬を越し、春には鳥たちに実を食べられないようにネットを張ります。用務員さんが毎日、土を整え、お世話を続けてくれたからこそ、今こうして美味しくいただいています!

そしてこのいちごの成長を見ていると、子どもの成長のプロセスにも似ていると感じます。子どもは、自ら育とうとする主体的な力を持っています。いちごの苗が、親株に守られながらも、自分の力で一生懸命に土へ根を下ろそうとするように、子どもたちも日々の生活の中で、生きるための「心の根っこ」を自ら伸ばそうとしています。子ども自身が「自分でできた!」という確信を持つまで、私達はただ信じて待ちましょう。しかし、ただ放っておくのではなく、その子の育ちのタイミング(時)をじっと見極め、子どもたちに安心できる温かな眼差しと環境を、絶やさずに注ぎ続けたいと思います。



聖書の中に、「神のなさることは、すべて時になくなって美しい」という言葉があります。子どもの育ちにも、決して大人の都合で早めることのできない「ふさわしい時」があります。すぐに見える結果が出なくても、試行錯誤している時間、じっと見ている時間、泣いている時間、そのすべてが、神様が一人ひとりに与えて下さった大切な成長のプロセスです。神様は、必ずベストなタイミングで、その子に豊かな実をなしてくださいませ。今年度まだ始まったばかりです。子どもたちの無限の可能性を信じ、その「時」を心から楽しみに、温かく見守ってまいりましょう。



泥だんご作り



園庭やお部屋では、自分の「やりたい!」を見つけ、じっくり没頭する子どもたちの姿をあらこちらで見かけるようになりました。毎日黙々と泥団子作りに挑戦しているこひつじさんたち。その手のひらの上では、大人が想像する以上の試行錯誤が繰り返されています。崩れない「水分量」を経験から導き出し、ツルツルになる「土の性質」の違いを発見し、壊れないための微妙な「力加減」を何度も失敗しながら体得し、やっとピカピカの泥団子が完成します。「次はこうしてみよう!」と自ら問いを立て、試してはやり直す。この泥団子作りという遊びのプロセスこそが、「物事にじっくり向き合う根気強さ」や「探究心」(非認知能力)を、知らず知らずのうちに育んでいくのです(^~)/